

説教題：主よ、助けてください(30～)

聖書：マタイ 14章28～33節

<口語訳>

新約聖書23～ 頁

マタイ 14章28～33節

<新共同訳>

新約聖書28～ 頁

マタイ 14章28～33節

<新改訳第3版>

新約聖書29～ 頁

マタイ 14章28～33節

<塚本訳>

新約聖書112～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ **マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
 - ◇ **マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
 - ◇ 本日は**マタイ14:28～33節**の「**主よ、助けてください(30～)**」の主の弟子、**ペテロ**の叫びを通して、「ほんとうに、あなたは神の子です」の信仰告白に導かれたことと私自身の信仰告白を問い直したいと願います。
- ⇒ **ペテロ**は、**ガリラヤ湖上**を歩いて近づいて来られるのが、「**御子イエス・キリスト様**」と、気づいて話しかけました。「**幽霊**」と、思い違いした自分を恥じる思いを抱きつゝ、「**水の上を渡ってみもとに行かせてください**」と、懇願したのです。
- ⇒ **OA師**が語っておられますように、「**安心なさい(27～)**」との主のことばを頼りにする思いで、手を差し伸べ、歩いて、1、2歩で、**風と荒波**を見て、怖くなり、沈みかけ、握った手を主が舟に引き上げて下さったのです。

本論；

◇本日、**マタイ書14:28～33節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ14章28～33節**；使徒**マタイ**は、「**主よ、助けてください**(30～)」とのペテロの叫びを通して、「**御子イエス・キリスト様**」への私自身の信仰告白と「**神(天)の国**」の隠された「**神の真理・真実**」を知りたいと願います。

◇**14:28～33節**；塚本訳◆**湖の上を歩く**

「28 ペテロが答えた、「主よ、あなたでしたら、どうかわたしに命令して、水の上を歩いてあなたの所へ行かせてください。」

29 「こちらに来なさい」とイエスが言われた。ペテロは舟から下り、水の上を歩いてイエスの所へ行った。

30 しかし(いま一足という所で)強い風を見たため、おじけがつき、沈みかけたので、「主よ、お助けください」と叫んだ。

31 イエスはすぐ手をのばし、ペテロをつかまえて言われる、「信仰の小さい人よ！なぜ疑うのか。」

32 そして二人が舟に乗ると、風はやんだ。

33 舟にいた人たちは、「あなたは確かに神の子です」と言ってイエスをおがんだ。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ14:28～31節**；「ペテロが答えた、「主よ、あなたでしたら、どうかわたしに命令して、水の上を歩いてあなたの所へ行かせてください。」(28)」、「こちらに来なさい」とイエスが言われた。ペテロは舟から下り、水の上を歩いてイエスの所へ行った(29)」、「しかし(いま一足という所で)強い風を見たため、おじけがつき、沈みかけたので、「主よ、お助けください」と叫んだ(30)」、「イエスはすぐ手をのぼし、ペテロをつかまえて言われる、「信仰の小さい人よ！なぜ疑うのか。」(31)」、「**御子イエス・キリスト様**」が、「溺れかけて叫んでいるペテロの手を握って引き上げて下さった」ことが、この箇所^の鍵です。

⇒「舟旅」は、「死」へ旅、海が滅びの象徴でした(**KT師**)。私たちの死は、避けられない事実で、死を恐れたり、不安になったりするの、当然です。

⇒「信仰の小さい人(薄い者)よ！なぜ疑う

のか」と、主に言われても、当然のことです。ペテロが格別信仰が薄かったのではありません。私たちは、信仰がない者で、主の恵みの手が支えなのです。信仰深い者とうぬぼれると、海、風、波の試練を恐れさせるのです。

⇒ペテロは、最初から手を取って、湖の上を歩かせてくださいと願い、祈ることでした。

⇒しばしば、信仰告白の手順や祈りの実体を忘れます。信仰がないのにあるように錯覚するのです。高みの見物のように他の人の信仰を主に先んじて評価するのです。これが、罪人の本質なのです。

◇**マタイ14:32～33節**；「そして二人が舟に乗ると、風はやんだ(32)」、「舟にいた人たちは、「あなたは確かに神の子です」と言ってイエスをおがんだ(32)」、「風はやんでしまっただけ」がありますが、「**御子イエス・キリスト様**」が、「主語」ですから、「荒れた海風を止め、静め、弱くして下さった」のです。

⇒不安や恐れを抱くと不信と思いがちで、思い煩いが一層不安にさせます。

⇒「舟」の仲間、11人も、信仰深さからではなく、

主のわざに驚いて、「ほんとうに、あなたは神の子です」と、言ったのです。

⇒ 私たちも、弟子たちと同じように、主のわざに驚き、戸惑う者です。

⇒ しかし、主は確実に、私たちの手を握っていただきます。その手を離さないでいるなら、主が、人生の荒海も、守って下さいます。

⇒【口語訳】 マタイ 8:23

それから、イエスが舟に乗り込まれると、弟子たちも従った。

24 すると突然、海上に激しい暴風が起って、舟は波にのまれそうになった。ところが、イエスは眠っておられた。

25 そこで弟子たちはみそばに寄ってきてイエスを起し、「主よ、お助けください、わたしたちは死にそうです」と言った。

26 するとイエスは彼らに言われた、「なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちよ」。それから起きあがって、風と海とをおしかりになると、大なぎになった。

27 彼らは驚いて言った、「このかたはどういう

人なのだろう。風も海も従わせるとは」。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
 - ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
 - ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
 - ◇本日は**マタイ14:28～33節**の「**主よ、助けてください(30～)**」の主の弟子、ペテロの叫びを通して、「ほんとうに、あなたは神の子です」の信仰告白に導かれたことと私自身の信仰告白を問い直したいと願います。
- ⇒ペテロは、ガリラヤ湖上を歩いて近づいて来られるのが、「**御子イエス・キリスト様**」と、気づいて話しかけました。「幽霊」と、思い違いした自分を恥じる思いを抱きつゝ、「水の上を渡ってみもとに行かせてください」と、懇願したのです。
- ⇒**OA師**が語っておられますように、「**安心なさい(27～)**」との主のことばを頼りにする思いで、手を差し伸べ、歩いて、1、2歩で、風

と荒波を見て、怖くなり、沈みかけ、握った手を主が舟に引き上げて下さったのです。

⇒【口語訳】 詩篇 57:1

神よ、わたしをあわれんでください。わたしをあわれんでください。わたしの魂はあなたに寄り頼みます。滅びのあらしの過ぎ去るまではあなたの翼の陰をわたしの避け所とします。